

# 股関節痛に対する理学療法

-病態解釈そして画像所見および理学所見-  
～Femoroacetabular impingementとGroin Pain in Athletes～

## 概要

股関節に変形がないにも関わらず出現する鼠径部痛や臀部痛は以前から認識されている。しかしその病態については大部分が不明であり、十分な治療ができないまま症状の長期化と遷延化に悩まされる患者は多い。

2003年にGanzによりFemoroacetabular Impingement（以下FAI）の概念が報告された。以降、原因不明の股関節痛が、股関節を構成する寛骨臼蓋と大腿骨頸部の骨形態異常に由来する可能性が示唆されるようになった。最近では、寛骨臼蓋と大腿骨頸部の骨形態異常に対し股関節内視鏡を用いた手術が実施され、良好な成績を得ており、件数も増加傾向にある。

Sports Herniaなどとされていた症候群であるアスリートに好発する鼠径部痛に対して、2012年のBritish Hernia Societyにおいて“Inguinal Disruption(鼠径部の破綻)”という呼称の使用と診断基準の採用が提案されている。また2014年開催のthe 1<sup>st</sup> World Groin Pain Conference in Dohaでは、“Groin Pain in Athletes”と表現することを採択し、5部位①内転筋関連、②腸腰筋関連、③鼠径部関連、④恥骨関連、⑤股関節関連(含むFAI)の疾患であることを定義した。

FAIおよびGroin Pain in Athletesの病態解釈についてはいまだに曖昧である、従って治療の一部である運動療法も確立したものはない。今回のセミナーでは、FAIおよびGroin Pain in Athletesの病態解釈に必要な知識を整理し、画像所見と理学所見による評価、さらに有効性が証明されている運動療法を、実技を交えて解説する。

【講師】 小野 志操先生（京都下鴨病院）

【日時】 2019年11月3日（日）9：30～16：00（9：00受付）

【受講料】 10000円（税込） 当日現金にて徴収

【申し込み方法】 HPにて受付

【HP】 <http://jissen-riha.com>

【問い合わせ】 [jissen-riha2@ab.auone-net.jp](mailto:jissen-riha2@ab.auone-net.jp)

【会場】 グリーンホスピタルサプライ（株）4階大会場  
（〒565-0853 大阪府吹田市春日3-20-8）

【交通のご案内】 北大阪急行電鉄「桃山台駅」下車  
南改札口より南へ徒歩7分

※近隣に駐車場が少ないので公共交通機関をご利用下さい

